サクラソウ日記

自学ノート提出数累計
１冊（１人）4/25 現在

（自分に自信と夢を～いまをだいじに、なかまとともに、一歩前進をめざして）校長　宮脇真一

当たり前のことかもしれませんが、学校はこどもたちの賑やかな声が聞こえてくる時間帯と、しーんと静まりかえる時間帯が交互に現れます。

３週目、こどもたちの姿にもメリハリがついてきました。「はきものをそろえる」意味も、こどもたち自身の中で、意識が高まってきました。

整然、、と、(2024/4/25 撮影)

聴き合う　～学びの始まりは「聴く」ことから～

毎週水曜日の１５：２５～１６：４５の時間帯は「校内研修」といって、職員の研修の時間帯です。教育基本法にも教員は「研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。」とされています。ですので、この時間帯は、こどもの命に関わる火急の案件への対応を除いて、研修に集中することを伝えています。

研修内容は、全ての教育活動の基盤となる人権教育に関することをはじめ、学級経営に関すること、教科指導に関すること、特別支援教育に関すること、ICT 活用に関することなど多岐にわたります。その中で、「聴き合う」ことについては、全ての職員が意識して取り組んでいます。こどもたちは「話したがり」です。先生たちも一生懸命に「伝え」ます。ということは、「聴く」ことから学びは始まります。「聴き合う」中で学びは深まります。もちろんその根底には、是々非々が担保されることは言うまでもありません。互いを尊重する中で、学びは一歩前進していくものであることを確認しています。

アンネのバラ　～今年も咲いています～

咲き始め（2024/4/25 撮影）

児童玄関の西側にある花壇に咲く「アンネのバラ」。この「アンネのバラ」について学校運営協議会委員の村下洋一先生が令和３年に熊本日日新聞に寄稿された記事の一部を引用します。

『(前略）アンネ・フランクは、第２次世界大戦でナチスの迫害に遭い、15 歳の若さで強制収容所で亡くなった。「アンネのバラ」は、自然を愛し、バラが好きだったアンネの「形見」としてささげられたもので、アンネのお父さんが日本にも寄贈され、愛と平和のシンボルとして全国に広がったといわれている。私が大津小で教師をしていた 20 年以上前、平和教育の一環としてこのバラを探した。日本では「やまむろ」という人が接ぎ木をして全国に広げる取り組みをされていること、大津町内にもその接ぎ木を育てている人がいることを知り、学校に招いて植樹してもらった。(後略)』(引用元：熊本日日新聞、2021,6,30 朝刊)

４年前の校舎増築の際に、当時の職員室前の花壇（現在は職員室の拡張のためなくなりました）にあったこの「アンネのバラ」を児童玄関西側の現在の場所に移植していただいています。毎年この時期になると静かに花を咲かせるこのバラにも、大津小学校に関わる人々の思いが込められています。子どもたち・職員・保護者のみなさんと、このバラの存在、由来、意図、意味を共有していきたいですね。